

## 第 12 回 CPD WG 委員会議事録（案）

日時：平成 21 年 2 月 6 日（金） 9:30～12:00

場所：日本工学会事務所

出席者（順不同、敬称略）：

主査 関田 真澄（(社)日本冷凍空調学会 事務局長）  
委員 木村 軍司（首都大学東京 名誉教授、電気分野）  
児玉 公信（(株)情報システム総研 取締役副社長、情報分野）  
佐藤 恒夫（(社)土木学会技術推進機構 機構長）  
永田 一良（日立製作所研究開発本部 技術主管、日本技術士会）  
担当理事 橋谷 元由（(社)化学工学会人材育成センター 部長）  
事務局 柳川隆之

配布資料：

CPD08-12-1 第 11 回 CPD WG 会合議事録（案）

CPD08-12-2 日本工学会 CPD ガイドライン（案）

CPD08-12-3 運営会議における桑原協議会長の発言内容の確認

CPD08-12-4 技術士 CPD 登録証明書

議 事：

### 1. 前回議事録確認

1 月 14 日に開催した第 11 回会合の議事録を確認した。

### 2. CPD WG の課題に関する桑原協議会長の発言について

前回の申し合わせに従って、12 月 15 日の運営会議における桑原協議会長の「全体が見えるような整理を行うべきである」という発言の内容を確認した結果が橋谷理事から報告された。検討の結果、本件は今後の課題として来年度以降に検討することにし、その間に桑原協議会長には現在の CPD の実態をよく説明して、検討すべき点をさらに明確にしてゆくことにした。

本件の討論に際して出された意見は次の通りである。

- \* 桑原協議会長からはプログラムを ABC などとランク付けするとよいとの発言もあった。（橋谷）
- \* 日本技術士会ではすでにそうなっているのではないか？受講するもの、発表するもの、学会活動という形態についての区分けは示されている。（木村）
- \* 証明書にはトータルのポイントだけでなく内訳まで書かれているとよい。（木村）
- \* 土木学会でもトータルポイントだけであるが、要求があればエビデンスを付けることになっており、これで内訳が分かる。しかし、内訳は提出先、用途によって重み付けが異なり、学協会が行うわけにいかない。（佐藤）
- \* あるいは、申請者が行うべきことである。学協会では内訳を出し、申請者が編集するのがよい。（橋谷）
- \* ランク付け（クラス分け）は現実としては難しい。テストを行うよう推奨することはできる。ウエイト付けもやられている。（橋谷）
- \* CPD は資格に絡む場合以外は、元来、学習意欲を養うことが目的である。（佐藤）
- \* 企業における人材育成の体制は壊れかけている。技術者個人が自分を売り込むことに

役立つシステムを考えてあげられるとよい。一方、企業は CPD に注目していないが、CPD を経営に役立てるような働きかけも必要である。これも当会の長期的なターゲットである。プログラムのレベルを明らかにすることは日本技術士会で考えているが、まだ先のテーマである。CPD の課題別、形態別 CPD 時間内訳を載せた登録証明書の発行はすでに行っており、3 年間さかのぼった記録の提供が可能になっている。(永田)

\* 土木学会でも資格のレベルに応じて CPD ポイント取得の目安を示している。(佐藤)

\* こうした実態を桑原協議会長に説明する必要がある。(橋谷)

### 3. ガイドラインの検討

橋谷理事および関田主査が作成した改定案が提示され、それをもとに文案の検討を行った。その結果、次のような訂正を加えることになった。

1) まえがきの第 3 パラグラフは次のように修正する。

「…により、各学協会が CPD プログラムを提供する体制を整え、傘下の学協会のみならず、多くの技術者の…」

2) 一般的に、定義はなるべく簡潔にする。

3) ガイドラインの中の個別ガイドラインの題目名称を個別ガイドラインのものと統一する。

4) 全体にわたって、「望ましい。」と「推奨する。」の用い方のルールを決めておく。

5) 1. 定義の (1) の第 1 行目の「などと訳され」は「などを意味し」とする。

6) 1. 定義の (2) の上から 4 行目から 10 行目までを削除し、(1) の第 4 行目から第 7 行目をその跡に移動する。

7) 3) 項の移動部分の「能力を磨く活動」は、さらに「参加型」と「情報提供型」に分類するかどうか検討する。

8) 1. 定義 (3) は「まえがき」または「4. CPD の促進」に入れる。

9) 1. 定義 (5) は「…、ある技術分野について参加学協会の CPD を推進してゆくことを目的に結成した組織を指す。」とする。

10) 1. 定義 (6) は「会員学協会の個人の会員と CPD のために…」とする。

11) 2. CPD 実績登録システム (1) の第 1 行目の「付属の記録登録ガイドラインにより、」は削除し、最後に「(参照：CPD 記録ガイドライン)」を付け加える。

12) 2. CPD 実績登録システム (2) の第 1 行目の「CPD 登録技術者自身の CPD 実績を証明する必要が生じることに備え、」は削除する。

13) 2. CPD 実績登録システム (3) の第 2 文は削除する。また、「(参照：受講履歴証明書…)」の「暦」を削除する。

14) 2. 2. CPD 実績登録システム (4) の「(参照：CPD 受講記録…)」の「受講」は削除する。

15) 3. CPD プログラムの質の保証 (2) の「研究者等」は削除する。また、最後に「(参照：CPD プログラム質の保証ガイドライン)」を付加する。

16) 3. CPD プログラムの質の保証 (3) は削除する。

17) 4. CPD の促進 (1) ①の「HP」は「ウェブサイト」にする。

18) 4. CPD の促進 (1) ③の「ロードマップ」に代わる用語の検討は保留とする。

19) 5. の表題を「学協会が CPD を推進する意義」とする。

各委員はさらにチェックして、抜けていることがあれば 2 月 20 日頃までに事務局に連絡し、次回に審議することになった。

議論の中では次のような意見が出された。

- \* CPD の役割が、(1) 技術者が自分を売り込むため、(2) 企業が個人評価をするため、にあることを加えてはどうか。(永田)
- \* 「教育」を「研鑽」に置き換える。(木村)
- \* ガイドラインとしてうまく機能しているかのフォローの仕組みが必要である。このこともガイドラインに入れてはどうか。(児玉)
- \* 本協議会の成果をシンポジウム等で発信してゆくことが必要である。他の学協会や協議会でもそうしている。そのときにガイドラインの修正もやるのも一案である。(橋谷、永田、佐藤)
- \* 「ロードマップ」はモデルをいくつか作って提示してはどうか。CPD を受けたいくなるような仕組みとして役立つとよい。(児玉)
- \* ポータルサイトに期待していた。入り口だけでも日本工学会が作ってほしい。いわゆるリンク集でよい。(永田) ⇒早急な実現を検討することになった。
- \* CPD プログラムが沢山出てくる前に、共通コードは作った方がよい。(永田)
- \* 磁気カードの共通化は検討したのか？(木村) ⇒検討したが統一化は不可能という結論であった。(佐藤)

3月27日の協議会総会において成果を報告できるよう、次回を3月4日(水)9:30~11:30に日本工学会事務所で開催する。

以上